

2019年01月31日

報道関係者各位

東急不動産株式会社

「渋谷フクラス」 観光支援施設の企画設計で JTB コミュニケーションデザインと協業 総合プロデューサーにタイムアウト東京代表の伏谷博之氏、 内装デザイナーに青木淳氏を起用

～体験空間をあわせ持ったこれまでにない新しい観光支援施設を創出～

東急不動産株式会社（本社：東京都港区、社長：大隈 郁仁）は、「渋谷フクラス[※]」1階部分に観光支援施設の設置を計画しております。このたび、株式会社 JTB コミュニケーションデザイン（本社：東京都港区、社長：細野 顕宏）と、本観光支援施設の企画設計を共同で進めていくことが決定しましたので、お知らせいたします。

※「渋谷フクラス」は、当社が組合員および参加組合員として参画する道玄坂一丁目駅前地区市街地再開発組合で推進中の第一種市街地再開発事業（以降、本プロジェクト）のビル名称です。

■ 総合プロデューサーにはタイムアウト東京代表の伏谷博之氏、内装デザイナーには青木淳氏を起用

株式会社 JTB コミュニケーションデザインは、約30年にわたり企業や自治体などの訪日プロモーションのサポートを行うなど、訪日観光客をターゲットとしたコミュニケーションにおいて多くのソリューションを提供しています。同社のインバウンドマーケティングの知見と、当社の街づくりにおける知見とを組み合わせることで、これからの「エンタテインメントシティ SHIBUYA」にふさわしい、まったく新しい観光支援施設を作り上げていきます。さらに、今回、本観光支援施設をさらに魅力的に仕上げるチームとして、世界39か国108都市で発行されているシティガイド「タイムアウト」の東京版を発行するタイムアウト東京代表の伏谷博之氏（ORIGINAL Inc.代表取締役）を総合プロデューサーに、内装デザイナーには公共施設からルイ・ヴィトンの店舗など多様な施設の建築デザインを手掛ける青木淳氏（青木淳建築計画事務所）を迎えます。



総合プロデューサー
伏谷 博之氏 コメント

世界の様々な国と地域の人たちが一番多く訪れる場所。観光支援施設は、これからの多様性社会の小さなプロトタイプです。知らない街でも安心できる。頼れる。心地よく過ごせる。コミュニケーションできる。ここからは始めることでその街の一員になれる場所。そんな観光支援施設をつくりたい。



内装デザイナー
青木 淳氏 コメント

インターネットで情報を得る方が便利。そんななかで、わざわざ行くのは、そこで思いがけないことに会えるから。つまり、空間が生きている。そんな舞台となるプラットフォームをつくりたい。

■ 場所×コンテンツ×コミュニケーションを組み合わせたこれまでにない観光支援施設

2018年に史上初めて3,000万人を超える（※日本政府観光局（JNTO）調べ）など、訪日外国人が急増する中、渋谷もショッピングや街の探索を楽しめる魅力的なスポットとして多くの外国人が訪れています。「渋谷フクラス」1階に、一般路線バスや空港リムジンバスも乗り入れる予定のバスターミナルと観光支援施設を併設することで、「渋谷の西の玄関口」として、渋谷駅周辺の国際競争力を一段と高めることを目指しています。

本観光支援施設では、「場所」「コンテンツ」「コミュニケーション」の3つの要素を複合的に組み合わせることで常に変化を生み出し、驚きや感動、楽しさを感じていただけるような、これまでにない観光支援施設を形成していきます。



■ 観光支援施設プロジェクトチーム

総合プロデューサー 伏谷 博之（ふしたに ひろゆき）

ORIGINAL Inc.代表取締役。タイムアウト東京代表。鳥根県生まれ。大学在学中にタワーレコード株式会社に入社し、2005年代表取締役社長に就任。同年ナップスタージャパン株式会社を設立し、代表取締役を兼務。タワーレコード最高顧問を経て、2007年 ORIGINAL Inc.を設立し、代表取締役に就任。2009年にはタイムアウト東京を開設し、代表に就任。観光庁アドバイザーボード 委員。

内装デザイナー 青木 淳（あおき じゅん）

東京大学大学院修士課程(建築学)を修了後、磯崎新アトリエに勤務。1991年に、青木淳建築計画事務所を設立。これまでの作品は住宅、公共建築、一連のルイ・ヴィトンの店舗に代表される商業施設など多岐に渡る。代表作に、青森県立美術館（2006年）、ルイ・ヴィトン松屋銀座（2013年）など。

企画設計協力 株式会社 JTB コミュニケーションデザイン

所在地 東京都港区芝3-23-1 セレスティン芝三井ビルディング 12・13階

代表者 代表取締役社長 細野 顕宏

設立 1988年

事業内容 「コミュニケーションデザイン事業」を事業ドメインとし、MICE、プロモーション、コンテンツ、人財育成・組織活性、施設管理、エンタテインメント等のあらゆるコミュニケーション事業を展開する。

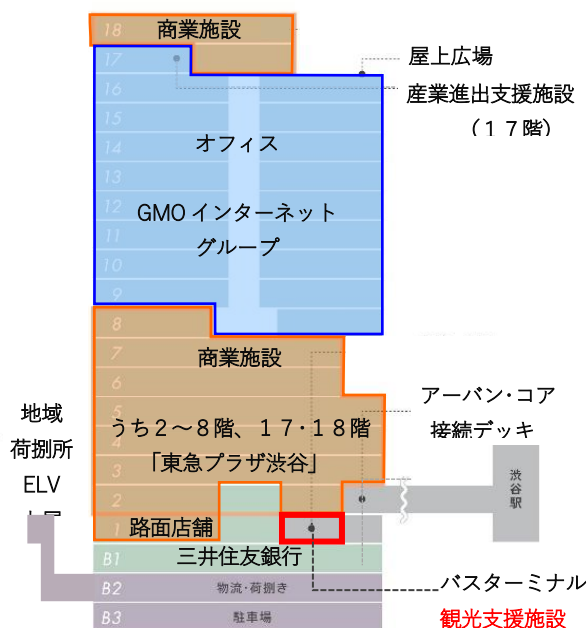
URL <https://www.jtbcom.co.jp/>

Jtb
Communication
Design

■ 観光支援施設概要

「渋谷フクラス」観光支援施設（名称未定）

事業主体 東急不動産株式会社
 企画協力 株式会社 JTB コミュニケーションデザイン
 所在地 東京都渋谷区道玄坂一丁目38番(地番)
 渋谷フクラス1階
 計画面積 約132㎡
 開業 2019年度（予定）



「渋谷フクラス」フロア構成イメージ

<参考資料>

■ 「渋谷フクラス」について

2019年秋の竣工を予定している本プロジェクトは、旧東急プラザ渋谷および隣接する街区を一体開発するもので、東急グループが関係者と共に推進中の渋谷駅周辺再開発のプロジェクトのひとつです。

約5,000坪を誇る9～16階のオフィスフロアには、GMOインターネットグループの入居が決まっています。また17階には、新しいビジネスを生み出す拠点となる産業進出支援施設を備えます。クリエイティブコンテンツ産業や外国企業の進出拠点となる施設を整備することで、企業やクリエイターのスタートアップとなる場を創出します。

2～8階、17・18階には、新時代のニーズに応える商業施設に進化して生まれ変わる「東急プラザ渋谷」が入ります。人生100年時代と言われ、世界に先駆けて超高齢化社会を迎える日本では、人々の価値観やライフスタイル、消費行動が大きく変化する、新しい時代に突入しています。そのような状況の中、新「東急プラザ渋谷」は「都会派の感性が成熟した大人たち」をターゲットに、新しいライフスタイル「MELOW LIFE」を提案していきます。



「渋谷フクラス」外観(北東側)イメージ

また、低層部は、路面店舗が街の賑わいを創出するとともに、地下1～2階には三井住友銀行が入居予定です。

さらに本プロジェクトでは、ビル内および周辺にて地域貢献施設の整備も進めてまいります。エレベーターやエスカレーターにより多層な都市基盤をバリアフリーで上下に結ぶアーバン・コア、渋谷駅と本ビルおよび周辺エリアをつなぐ道玄坂接続デッキを整備。「渋谷フクラス」をハブとして、渋谷駅や周辺エリアへ上下左右に移動しやすい歩行者ネットワークを実現します。

1階には、一般路線バスや空港リムジンバスも乗り入れる予定のバスターミナルを設置。手荷物預かり、観光案内などの機能を備えた観光支援施設を併設し、渋谷駅周辺の国際競争力を一段と高めます。

こうした取り組みを通じて、本プロジェクトでは、渋谷を訪れる多世代やインバウンドの人々にとって渋谷駅西口の新たな玄関口となるとともに、多様性という渋谷の魅力をより一層高めることができるよう、地域とともに賑わいある街並みづくりを進めてまいります。

■ 事業概要

事業主体	道玄坂一丁目駅前地区市街地再開発組合
所在地	東京都渋谷区道玄坂一丁目38番(地番)
用途	店舗、事務所、駐車場等
敷地面積	約3,336㎡
延床面積	約58,970㎡
階数	地下4階～地上18階(建築基準法上は19階)
高さ	約103m
設計者	デザイナー・アキテクト：手塚建築研究所 マスター・アキテクト：株式会社日建設計 設計・監理：清水建設株式会社一級建築士事務所
施工者	清水建設株式会社
竣工	2019年秋(予定)

計画地

